

□特集／神戸の坂道

私の好きな坂道

長峰坂

多田智満子

〈歌人〉

勾配二十度の坂ときけば、大した急坂とも思われないが、実際に自分の足で登ってみると、相当きつい傾斜であることがわかる。摩耶山麓の私の住居から、梶谷川ぞいの登山道に至る見晴しのよい坂道がそれで、急勾配につき駐停車禁止、下りの車はエンジンブレーキ使用のこととなっている。

この舗装した坂道の行き止まりが、山腹にひろがる長峰墓地で、すぐその下が外人子女のためのカナディアン・アカデミー、さらにその下が市立長峰中学とあって、朝夕は坂の上から下まで、通学生の列がつづく。私の長男はその長峰中学にこの春まで通い、毎朝始業ぎりぎりにこの二十度の勾配を駆け登ったおかげで、ずいぶん脚が丈夫になった。先日、息子の卒

業式に出てみたら、来賓の中に隣りのカナディアンの校長の顔が見えた。国際色ゆたかな、わが長峰坂である。

立江・鳥原界限

伊勢田史郎

〈詩人〉

手頃なので日曜日にはよく六甲山に登る。お酒を飲んでいる時や風呂にはいつている時もそうだがひとりで山を歩いていると、頭のなかが空っぽになったみたいで、非常に快い。山に登れない日には散歩に出かける。これは山歩きほどではないが、神戸の南並に通じる道はのほりつめると大い街や港を一望のもとに見渡すことが出来て何となく愉快になり、又、頭が空っぽになるからだと思う。

コースは日によって変わるが、これも手頃なので、熊野神社・永室神社・立江寺・行守寺・鳥原貯水池・五十段・石井橋・天王谷橋・

夢野橋と、環状に辿る日が多い。時には娘や息子を伴ってゆく。姉弟が仔犬のように巫山戯あつているのを眺めているのもまた快いからであろうと思う。

ゆっくり歩いて一時間ばかりのこの道程を愛するのは、季節ごとの眺めに優しい趣きがあると自ら思いこんでいるからだ。また、中村隆をはじめ何人かとの詩と酒を核にした三十年來の交友の思いが、青春の日々が、泌みこんでいると信じこんでいるせいであるのかも知れない。

ジエームス山

角 卓

〈画家〉

坂道のもつ意義は大変なものです。凹凸のある自然の形に対し人は皆それぞれの立場で興味をいだいている。それを象徴するのが、神戸の街。

私は二十数年前に坂道のある風景を求めて塩屋にあるジエームス山にとりつかれてしまった。今でも月に二、三度はスケッチに出かけるが、日本の南仏ともいえる欧風の建物の間から内海を眺め、春夏秋冬色調が変り風景全体の中に坂なる道が形づくる形態がそこをたずねる人にすばらしい暗示をあたえてくれる。親友日君が私にかわり最近そこに居付いたが皮肉に

も日はそこに余り関心をもたぬようだ……。私には忘れられない大切な自分の位置づけされたところ、で中央で度々受賞の栄にもありつけたジェームス山。二号国道から登っても神明道から入ってもまた風趣異りたのしいところですよ。

現在住居をもっている赤塚山も家を中心に十二通りの坂道が放射状にはしり、目的によってちがった坂道を歩きながら自然をたのしめる。ジェームス山と同質を味っている。

すべていい坂道

安水 稔和

〈詩人〉

この頃ときどき自転車で家の近くを走る。坂ばかりだ。これまで平坦な道だともって歩いてきた道が、実はゆるやかに傾斜した道だと気づいたりする。そこで、ゆつくりのぼっていつて、さて、ゆつくりとくだる。これがなんともいえず、いい。

神戸のどこの坂道がいいかと問われても困る。家のまわりは坂道ばかりで、すべていい坂道だとも答えようか。

こんな詩を書いたことがある。

わたしたちの街では、道を歩くということは、坂をのぼること、坂をくだることを意味します。まっすぐ歩いていても、いつのまにか、のぼっていくのです。くだっていくのです。

一直線の道

中村 茂隆

〈作曲家〉

私の家は西灘。坂道といえば、戦争前、五毛天神のお祭りの時、鳥居の前の一直線の坂道を夜、提灯の灯で飾りたてた数台のだんじりが鳴り物をひびかせながら一列になってのぼってゆく華やかな宮入りの印象が忘れられない。うつとらしいクルマを追っばらつて再現してほしいものだ。子供の頃休日といえば摩耶山へのぼった。歩

く時も、ケーブルに乗る時も、いづれも、これまた一直線のバス道をのぼって行く。のぼるほどに視界が開け海が見えてくる。少しあえぎはじめる頃、春なら吹雪のように花びらの散る桜並木のトンネルをくぐると、そこにケーブルの高尾駅がある。神戸一中に入学、神戸高校を卒業するまで六年間、学校通いは悪名高い、地獄坂。戦時中廃止されていた三宮―阪急六甲間の市バス路線は私の在学中再開されたが、バス通学は禁止され、全員、阪急西灘または国鉄灘から歩いて通ったものである。

現在勤めている神戸大学教育学部は六甲ケーブルのすぐ下にある。時間に余裕のあるときは家から斜めに斜めに歩いてのぼると四〇分。汗びっしょりになるが、その日一日気分はさわやかだ。なんだか坂をのぼる話ばかりになってしまったが、わが家からは往きは阪急西灘まで、帰りは市バスの五毛天神からと、もっぱら下り坂を利用することもできるし、昨年、実はこの方が多いのである。

カスケード・バレー

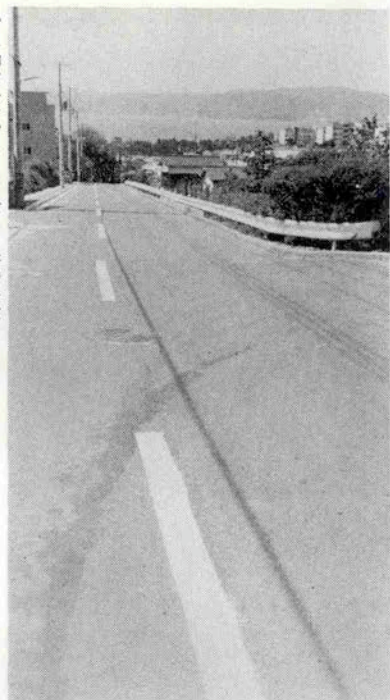
山本吉之助

〈登山家〉

カスケード・バレーといっても分からない人が多いと思う。堰谷といえはなんだというだろう。し



眺望が素晴らしい鉢伏山の坂道



淡路島と明石海峡が見える舞子の坂道

思い出の坂

新谷 映子

《彫刻家》

かし神戸だからこそバタ臭い呼び名がふさわしいと思う。この谷道は明治二十三年頃グルームさんが六甲へ初めて登った道で、その後明治、大正の間五毛から六甲へ最も多く登られた歴史的な道である。

昭和十三年の大水害で大荒れに荒れ、長い間一般登山者はシャットアウトのかたちだったが、昭和三十五年頃神戸市が修復してから実に気持の良い道になった。自然を殆ど痛めないで楽しめる道で、舟坂峠かこの榎谷峠が六甲山中第一の道と思っていた。それが一昨年だったか県が大改修した。今度は玉石とコンクリートの階段がふんだんに造られ（八百段近い）義理にも自然歩道とはいえなくなり、昔の面影もなく、今一度元の姿にと願うのは私一人ではあるまい。

街中ではトア・ロードが神戸らしい味のある坂道で私は好きだ。

ここは数少なくなった異人館のある坂の上の町、北野町界隈である。小学生時代、友人の住むこのあたりでよく遊んだことの記憶をたどり、久し振りに歩いてみた。ここは狭くて急な坂ばかりで、とにかく坂を登っていくと右に左にと折れ、いくつもの洋館を見ながら、また曲がりくねった道が続いており、あぐくの果て、急な階段の上に赤い屋根の洋館がポツンと聳えている。

すぐ後が山なので木々の緑とその赤とが美事なコントラストをみせており、幼な心にも感心したことを憶えている。このあたりの洋館は、緑・白・茶・クリーム色にペイントされた壁板とよろい窓が、明るく美しく見えた。そして屋根にあるのは石づみの煙突で、我家にあるのと同じ大きなサンタ

クロースの入口だと信じていた。S瓦やうろこ状のスレート丸屋根を眼下に、はるか彼方に外国船の浮ぶ海を手にとるように眺めた景観は、当時の私にとって遠い国に夢を運んでくれた楽しい思い出のある坂だったのです。

歩行者天国だったこの狭い急な坂も、今はミニカーがすいすい通りぬけ、角では一旦停止、左右確認のルールを守らなければ危ないほどである。それに家並みも住民もすっかり変ってしまっていて、ビルの間から霞んだ海を垣間みることもしか出来なかった。葉を落した蔦の黒い枝も時代を経て太くなり、力強く石垣をはつていて、まるで抽象画の様に風情のある白壁と、こぎれいに手入れされた庭が柵越しに見え、今は、どんな人が住んでいるのかなあ………とまっていると、いつの間にかすべりどめのある下り坂になっていた。

花隈の坂道

西脇 親

《神戸土地建物取締役社長》

神戸の坂道の中で、印象に残っているのは、花隈の坂道である。それは、今から二十年も昔のよき時代であった。「松の家」の門を出たが、連れの市若と鈴丸も、私と同様呑み足りなかった。花隈の坂の途中に「松葉」という蕎麦屋

がある。ここで、三人が呑み直している時、悪戯好きの鈴丸は、市若に、こういった。

「市若姉さん、何にしよう？私は天ぶらそばにするわ。鴨なんばもいいわね。それにしても、一枚では足りませんよ。二人分だから、二枚は必要でしょう。姉さんは背が高いから、楽に取れるでしょう。」

市若は腰掛を踏台にして、鴨居にかけてあった天ぶらそばと鴨なんばの木札を外し、そっと袂に入れた。そして、私の方を見て、指を唇にあて、他言無用の合図をすると、さも嬉しそうに、にこりと笑った。

飛んだ目にあったのは、蕎麦屋であった。

オッコサンと

メッコサン

川口 陽之

《自動車評論家》

日本列島の地殻の主体は、二億

五千万年前の秩父古成層から成っている。神戸市内でこの地層が顔を出しているのは、垂水区神出町の雌岡山（めっこさん）と、雄岡山（おっこさん）だけである。

神戸一帯が湖になった二千万年前の古神戸湖時代や、二百万年前の古明石時代にも『島』として突出していたので、瀬戸内海の島の山頂部にしかない『カゴの木』などが、神戸市内でここに残っている。

紀元前二世紀に、水田稲作をはじめた垂水、明石の弥生人は、明石平野の中に忽然とそびえるこの二つの美しい山を、信仰の対象とせざるを得なかっただろう。素盛鳴命と、奇稻田姫にたとえ、稲の神大國主命を生んだということで神出（神が出た）という地名も生れた。

雌岡山のご神体である女陰石と男根石の崇拜は、もつと古く、数千年前の縄文人の子種ねと、安産の信仰であったはずで、現在も残

っており、お参りも多い。

太平洋戦争中の高射砲陣地で、この雌岡山への登り道は抜けられ車で行けるようになった。この坂道からの明石平野の眺望は、まことにすばらしい。二億五千万年前のナマの土を踏みしめ、神話の昔に思いをはせる絶好の坂道……メッコサンをぜひ尋ねてほしい。

梯子のような道

上田 峯月

《登山家》

神戸と坂道、これは切っても切れぬものがある。この坂道があるために大気の汚染を防ぎ、港都の風致をよくしている。前に海を眺め後ろに緑の山を負うて、氣候の緩和のためにも果している役割りは大きい。

炎天下の下、馬車馬があえぎあえぎ坂の中途に止って動かず、馬子が尻を打って叱咤する、「馬も暑いんですから可愛想に」とつぶやくお内儀。街へ買物に下り品物を持ってまた上る。とても大儀であったが、さて家に帰ると山の大地ですつとすると、どうしても下町では二度と住もうとは思はない、お蔭で元氣になった。これもよく聞かされた懐い出であった。

私は春日野道を上へ上りつめた中尾町に生れ、七十八歳になる。この坂道の思い出は尽きない。



山手女子学園から諏訪山へと続く道



可愛い教会へ通じる北野町の坂道

春日野道に阪神電車が通じ、市

電の終点が出来て商店街となり、夜店が出た頃街の灯にあこがれてよく出かけたものであった。下から見上げると梯子の様な道。熊内橋の電車通まで上ると空気が変わる。上の今のバス道まで帰ると一層大気が冴える。谷風が快よく街の灯を眼下に見下ろす快観は忘れられない。

毎朝登山を始めてより五十二年登山記録も一万八千四百回を越えた。一步一步踏みしめての坂道にも、精神的な大きな休養となり、今日の健康を保ち得たのを何よりも有難いことであつたと思つてゐる。

鉢伏山の坂道

山本 芳樹

〈山陽電気鉄道興業部長〉

海と山の景観が一諸に楽しめる須磨浦公園の鉢伏山の坂道が好きだ。そしてこの鉢伏山ほど海に突き出た坂道はあるまい。

仕事の関係でよく登るけれども

大抵はロープウェイを利用してゐる。然し時にこの坂道を歩いて降りる。そしてその都度いつも思う。これだけスバシイ景観はザラにはない。昔から多くの人達が詩歌に詠んだ筈だ――。

市の公園だけあつて頂上から公園駅までキレイに階段が整備され、右手の明石海峡や淡路島、眼下の海苔しだの模様、そして眼の前の内海を音もなく行き交う汽船の数々、遙か彼方の紀州の山々などを眺めながら、まるで海に突込むような急勾配の石段をゆつくり降りて行くのは楽しいものだ。

蝶々さんのあの「ある晴れた日に――」の歌でも唄いたくなるような海の坂道だ――。

変貌する坂道

田中 徳喜

〈画家〉

多種多様の複雑な世の中で、ものの価値観が変りつつある。神戸

の坂道も以前よりも美しくなった坂道、その美しさを失つた坂道へと環境と共に変化し、昔のイメージがこわされ、その変貌に私はおどろく。

湊川神社の西側に人専用の坂道が新しく誕生した。道路が色のついたタイルで舗装され緑でかまされた彫刻のあるいこいの坂道である。決してこの坂道は景観が美しいとはいえないが坂道自身が美しく人工的に造られている。

最近、バイコロジという言葉が聞かれ自転車の普及がはげしくなり、神戸市政にも身障者対策が重要視されている今日、神戸の坂道は福祉の観点から多様性を考慮し、私達の生活に適應した坂道として都市計画を考えてほしい。そしてその坂道自身も美しく、その景観も美しくなり環境も整備された坂道から新しい良き神戸の街が私達の心を豊にしてくれるのではないかと思う。

知覚的な風景

緒方しげを

〈写真家〉

神戸の坂道といえは、私は新神戸駅の東から塩原女子高校を経て徳光院に至る坂道あげる。この坂の入口から第一のカーブを曲ったとたんに都会のおもむきとは全く隔絶された感覚にとらわれる。

坂に沿って深い人工川が流れ、その対岸の狭いスペースに家々がひしめき合っている。しかもその家々には必ず一本の橋がかけられており坂下から見上げるとそれらが重なり合って視覚的に面白い構成を形作っている。この場所を一枚の写真で表現するのはむづかしい。なぜならば、視覚と共にほほをなでる谷間の冷気と、ザーという流れの音とがとけ合ってこの場所の雰囲気をかもし出しているからである。いかえれば知覚的な風景ともいえる。特に夏の夕方の風情は好ましい。月明の夜、第二のカーブを曲って左を見ると、家々の灯が点々と空に向かって重なり合い小山の稜線には、より星に近づくと事々出来た数軒の家々のシルエットが、夜空のキャンパスに誇らしげに定着されているのである。この坂を登りつめると徳光院がある。ここの林はすばらしい。特に雨の日は印象的である。この坂道は私のイメージの宝庫であり、安らぎの場所でもある。大切に残しておきたいものである。

生活の中の坂道

根津耕一郎

〈建築家〉

子供の頃通したのは神戸一中の坂の下の辺りである。随分巾の広い道であると当時想ったのである

が子供のスケールから広いのであって、その後大人になってから感慨深げにその道を歩いたとき随分その狭さに失望したのである。坂道を利用した終戦直後のペヤリングを使った手製のボブスレーなど日常の遊びがすべて坂に関係があった。しかし戦争の未だ激しくない頃、摩耶山の山の中にかぶと虫の巣、それも自分だけの秘密の場所のかぶと虫の巣へ一人でその坂を登って行くその坂道の憧憬はすばらしい坂への想い出である。また戦争が激しくなると、裏山へ焚をとりに行った。その頃の僕には重い焚の重みは坂を転がるに従って軽くなった。坂が神様にみえたのである。大学を卒業して名古屋へ行った。瀬戸の土を生み出すくらいこまかい砂塵を含んだ砂風がこの平らたい濃尾平野を吹くこの街この平たい街の偏平さにあきあきしていた。そしてタクシーに乗っても北に行くことを上っていつてしまふ程神戸の上下がしみ通っていた私は名古屋のタクシーの運転手をとまどわせ、かつその立体的のない街をうらんだのである。

時間給水のときにも、水のないときのもらい水にも坂下の井戸を選ぶように常に生活の中に斜面があり、上と下のポテンシャルエネルギーを考え、遊びの中にもそれを取り込んで来た私の子供のときから学生時代の生活は坂そのものである。それ故に斜面に建物を設計し建てるのが今も好きである。

三本松の不動坂

別車 博資

〈画家〉

私の住居は須磨の潮見台であるから誰れでも海の見える高台であるうとお察しがつく。須磨駅から西並四百米の近さであるが、狐坂という急坂をのぼるので来客は冬でも一汗かいてもらわねばならぬ。私の老化した痛む足では三十分もかかるが車だと一分くらいですむ。

しかしその狐坂の如きは坂の街神戸では自慢にならない程度である。私の健康管理をしてもらっているR病院のある葺合の坂道の方がずっときつい。

神戸で有名な坂は六甲荘のある加納町交差点から異人館が多い三本松へ上る道ではあるまいか。かつては自動車の急坂をのぼるテストコースに選ばれていたたりした。この坂道の美しさをたたえた詩人のTはその傾斜は三十度もあろうと記したところ、誰であったか、なにかのかき物に十五度位であると訂正していた。実測ではそうであつても詩人の感覚に私も同調するしんどさを覚えながらその佳景をよくえがいたものである。

こんにちは赤ちゃん



小泉 豊くん (S.48.1.6 生)

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大槻町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

Goncharoff

心と心を結ぶ
手づくりの味



さわやかな光が届けてくれた
手づくりの心—ゴンチャロフ

ひとつぶの
クインペルの手ごたえ
ゴンチャロフがその誇りをかけて
じっくりと磨き上げた
ときの輝きなのです
この味を大切な方に
心をこめてお送りください

クインペル
quimper

★神戸の集いから

★イケバナ・インターナショナル神戸支部

相楽園で初の作品展

いけばなを通じて国際親善をはかるイケバナ・インターナショナル神戸支部が昨年9月第181番目に誕生。

去る4月26日・28日、相楽園内にある庭画廊で、第1回の作品展を開いた。テーマは「FRIENDSHIP THROUGH FLOWERS」。

特に今回は世界的なカメラマン・アルマツト・ウイリスキン夫人の写真とともに、48名の会員が力作を並べた。外人会員の自由な発想のイケバナには、イケバナを楽しむおらかさと個性があつて非常に面白く觀賞できた。

オープニングパーティが初日に開かれ、東京からはメリー・フォード会長が、京都からは支部長がかけつけ、神戸支部長のミセス・サラ・ガートインをはじめ、宮崎市長夫人ら会員は大喜び。各流派をこえたイケバナを愛する国際交流は、春の花開く季節にふさわしい催だった。

★花の碑を徳光院に

四国の五剣山でみつけた阿治石に「花の心」と彫り布引山麓の徳光院の境内に「花の碑」を、新日本華道の家元西村雲華氏が献碑。その完成開眼式と祝宴が、四月十三日午後二時より、桜咲く楠並木の樹陰で開かれた。

除幕は西村一美ちゃんの



相楽園でのイケバナ作品展パーティ・右はサラ・ガートイン神戸支部長



花の碑と西村雲華氏



開眼式が始る

手で、開眼読経は徳光院住職橋本恭堂さんの禪宗読経で、献華は西村雲華氏により、供華は、菊和会連中(40名)の出演で、野村正峰新作「美吉野」を高平鐘山氏の指揮のもとに、桜散る花の下を参列者が白菊を供えて祝った。西村雲華氏は、私の華道生活に感じた心を石に託して道そうというもので、この完成は、私の生涯を通じてのもっとも幸せな日です」と感慨深げ。

新しい関西を創造する総合雑誌
オール関西
△6月号予告▽



☆グラフィック

「女の四季」樋本 栄

「万葉記」犬養 孝

「しにせの心」

「対談シリーズ」

「アラブの旅」

林 辰彦

☆特別企画

京阪神現代の

しにせの会発足

中国展見どころガイド

☆座談会

村松寛・里井達三良・朝比奈隆

☆企業インタビュー

わが社を語る サント

リー・大和ハウス他

☆「ハタセン」のミニ博物誌 ②畑専一郎

☆「織田作之助伝」②大谷晃一

☆「大阪ものがたり」⑩石濱恒夫

☆「タぐれに苮を植えて」⑨足立巻一

☆「現代と伝統」⑥吉田光邦

☆「アラブ大使の声」林 辰彦

月刊オール関西編集部

大阪市北区梅ヶ枝町80

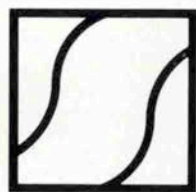
梅新ビル7階

TEL 06-364-2434

光と風があふれる街
あなただけのヨーロッパアンファッションで軽ろやか……



la boutique charmante
セリ澤



serizawa

本店＝神戸市生田区三宮町 3－18

インテリア・ダイアリイ June——呉服店
伝統美とエキゾチシズムの出会い

きものとステンドグラス——
そのひとときわ新鮮な華やぎが
美を愛する人たちの心を
ふっと魅きつけてしまう……



インテリア・ダイアリイ

▲工芸呉服*多久美*(元町)
設計施工/入船KK
担当/長田拓朗

企画・設計・施工のオールマイティ ▼ 入船株式会社

神戸市灘区友田町5-2-2(グランド六甲ボウル1・2F) TEL. (078)851-3191

元町バザー旅シリーズ

Italy

イタリアの旅<1> Venice



CORTINA
OF
ITALY

ネクタイの

元町バザー

神戸元町1番街

TEL331-7031

東京 東急百貨店

渋谷本店/日本橋店

吉祥寺店

優雅さと気品を

6月のインタビュー/石井知子さん<石井一氏夫人>

Bekko ベッコ サロン SALON 16



いいものは
いつも美しい

4 F サロン・ド・グウにある
ブティック『ガルチン』をたずねて



DAIMARU
もとまち
TEL.078(331)8121(代)

イレーネ・ガルチンはブティックをもたない数少ないデザイナーの一人です。ローマのベネト通りに彼女自身のファッションハウスがあり、そのアトリエから作品は一点一点誕生します。彼女のデザインセンスは伝統あるオートクチュールのテクニックを駆使しなければ表現できず、そのために製作点数は他のデザイナーに比べ非常に限定されています。日本で初めて神戸大丸だけにブティックとしてこの春オープンしました。

今月のインタビュアはデザイナーでもあり、忙しいご主人(石井一代)を助け名ホステスぶりをも発揮される石井知子さんです。「一番好きな色はグリーンね」とおっしゃる石井さん、初夏の街に映える緑のようにさわやかインタビュアの開始です。お相手は婦人雑貨サロン・ド・グウ次長石田光弘さんです。

石田 今、大丸ではデザイナーの作品の良さをお客様に充分知っていただけるようブティック形式で、満足と親しみのあるコーナーをつくっているのですが……。

石井 いいことです。いわゆる百貨店というイメージから一つ一つの味のあるコーナーをつくるというイメージへの転換ですね。

石田 それぞれ特長あるデザイナーのクチュールを直輸入しています。このガルチンの場合、ニットを中心に婦人洋品を入れていますが、秋からはネクタイやカフスなどの装身具等の小物も入る予定です。

優雅さの中に秘められた躍動美を、気品深く表現した非常に優れた商品はかりで、その上イタリアフアッションの特筆すべき色彩の美しさを兼ねそなえていますので、改めてガルチンの良さを認識していただけたと思います。

石井 ブティック展開される前に比べ商品に格調がプラスされたみたいですね。

石田 見易くなったと評判もいいです。

石井 シルエットが独得ですね。ロングなども多いに入れたらいいかがでしょうか？去年ぐらいから、ロングを着る場がふえてきたと思うのですが……。

石田 生活にゆとりのある奥様を中心に、気にいるものをよく吟味された上でゆっくりお買い物をしていた

だけけるよう気をつけています。神戸のお客様はセンスもあり雰囲気大切にされますので。

ガルチンコーナーでは三原和美という担当者がいつでもご相談に応じます。この商品は決して安いとは申せませんが、品質、仕立てのよさは、もう着ていただいたその方が一番良くご存知のことと思います。大丸のテーマ、いいものはいつも美しいをそのまま実践していただくようなものです。(笑)

石井 そうですね。でもチョット淋しいのは、日本の男性ファッションがまだまだ固定観念にとらわれているということですね。その点、欧米では男性のファッションがとても楽しいですね。男の方にもがんばっていただきたいワ(笑)

ガルチンについて

現在、ローマで活躍中のロシア貴族出身の女流デザイナー。その優雅な作風、気品ある感性、豊かな教養により「プリンセス」ガルチンと呼ばれ、ローマで最も人気のあるデザイナーとして彼女の創り出す作品は常に人々の賞讃を浴びている。一九五九年FILENES TALENT賞を授与され華々しくファッション界にデビュー

ガルチンの隣にあるブティックエミリオプッチ

ショーにおいての「パラッドドレス」の発表は熱狂的な賞讃と興奮を呼び、彼女の名前を不朽のものとした。以後、数々の国際的な賞に輝きその名声はヨーロッパのみならず全世界に広まっている。又一九六九年イタリア

の最高芸術賞である「MASCHERA D'ARGENTO」賞をデザイナーとして初めて受賞し、その文化的意義を広く認められることになった。サイズは四サイズ、作品に応じたシルエットをくずさないたんねんなお直しをするため、一週間〜十日のお直し期間を必要とします。





戸景 神百

31

カメラ

小山 保

修法ヶ原

田原富子

〈ヒアニスト〉

一四だったか、一五だったかとも角、中学の時、夏休みに学校の先生に連れられて、ホラ、あの三宮から出ているバスに乗って行っただけです。バレーボールやバトミントンに興じている人達、数多いアベック達に目をやりながら、キャラメルを買ってもらってポートに乗ったんです。池の回りの木立に開まれた細い道は何かヒヤッコクで、別世界にいるみたいな気分だったんです。

過ぎること7年、去年の夏、その池はカラカラに乾いて、土煙りが上っていました。



六角堂

田口寛治

〈神戸大学文学部教授〉

戦後すべてのものが荒廃していた時期、この六角堂も荒れ果て、うらぶれていた。それが、何か秘密めいたものを感じさせた。ルパンの奇巖城のように、内部には見るものに息をのませるような何物かが秘められているようだった。

修復されたいま、神秘な感じは薄くなった。だが、やはり秘宝が内蔵されていた。八方の窓から、それぞれ趣きを異にしてあらわれる瀬戸内を一望することのできる視点という秘宝が。



中央卸売市場

中村 隆

〈詩人〉

天正八年、花隈城落城のあと、池田信輝が築いた兵庫城の城址に、四十年の激動の歴史を生き抜いた中央卸売市場の本場がある。この外、東灘区の東部市場の二市場から、年間五十数万トン、一千億円余りの魚や野菜や果物が、百三十万市民の胃袋に収められていると聞けば、わがことながら啞然とする。

人間がいかに高度化しても、食い物を拒むことが出来ない以上、もっと市場の流通機構や、適正価格について、

戸景
神百

33

市民が口出ししてもいいのではなからうか。とあれ、卸売市場が「神戸百景」に選ばれたということは、市場に住む市民の一人として、大変うれしい。



須磨寺

一谷定之丞

〈前兵庫県副知事〉

時の流れは、あまりにも早い。満開の桜を賞せる間もなく、葉桜はまた、黒々とした青葉にかわった。

テレビの大河ドラマ「新平家物語」に甦った敦盛と直実の像は、いつしか青錆びて、白砂に動く影さえ時を刻み、青葉の笛の音を聞くすべもない。

もちろん

「須磨の仇浪」の悲劇

も、古い時

代の物語と

戸景
神百

34

して忘れられようとしているが、せめてものひととき、この親子地蔵の由来の糸を、一弦琴の調べにあわせてたぐりよせつつ、須磨寺の縁に、わが身一つを染めてみたいと思うきよう此頃である。



元町一番街

朝比奈 隆

〈指揮者〉

両側の店が仕舞ってスズラン灯だけのほの暗い通りになると、元町は急に西洋っぽく成った。港も今よりは近い感じで海の香りがふんと匂った。山側、浜側のせまい横丁には横文字入りの赤や青の看板に火が入り女達と立話する西洋人の姿が見えたりして、ちらっと横目で見ては通りすぎたものだった。夜更けになってダンスホールや酒場が閉まった後もこの辺だけは飲めた。今の「元町バザー」のあるあたりの浜側の横丁にあった「青い錨」という酒場に夜半によく行った。どの店もせいぜい二階建て、夜の空が広々としていた。

今は足ざわりのいいレンガ道になり、立派な店が立並び、屋根まで付いたので雨の夜でも濡れずに飲み歩けるが、横丁をのぞいてみ

戸景
神百 35

たい気が起
らないのは
明るすぎる
せいかも知
れない。



市章山

及川英雄

（作書）

私たちの
年輩では、

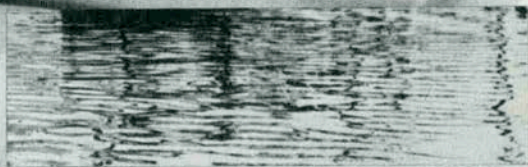
戸景 神百

36

錨山という名称がしみこんでいる。錨山の電飾が夜空に輝くときは、何か神戸に記念行事があったり、また国家的な慶びのある場合であった。

みなと祭りもその一つで、祭りの数日前から灯が点され、元町の三星堂薬局の二階の茶房で、夜空にくつきりと湧えた電飾を見ていると、町内の人たちが練習をしている港祭りの音頭や囃子が流れて来たり、船の汽笛が聞こえたりしたものだ。近ごろ、市章の周囲に紅葉樹を植えて、その象形を描き出したら、という話も聞くが、地質学的に紅葉樹が育つとすれば、よいアイデアだと思う。

のまわりを廻っている夏



若さの向たる力を感じるわ!

●Fashion eye <6> ナツはミズギ

フォト……杉尾友士郎
水着……C・ティオール

モデル……川村浩子さん・柴田恵子さん
提供……神戸大丸 / コーディネーター・松浦房子

太陽が私



地球が太陽のまわりを廻っているって本当?



水ひかる頃

トータルインテリア 欧米家具直輸入 ショールーム

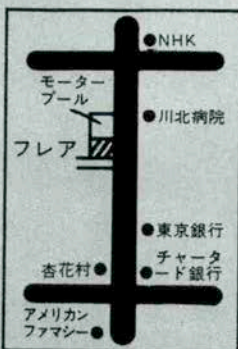
フレア トアロード店

新しい感覚

6月1日オープン



本格派のインテリア
ショップとしてより
すぐった欧米家具を
お届けします。
国際会館フレア同様
ご愛顧下さいませ。



KOHI
FLAIR

フレア

トータルインテリア トアロード店 321-6350
ギフトセンター 国際会館店 221-9713

おかげさまでビューティサロンあきは **20** 周年を迎えました。
 blue akira staff rose akira staff



“美容室あきら”も、皆さまの暖かいご支援により、おかげさまで、満20年を迎えることができました。これからも、新しい技術と創意をもってスタッフ全員、皆さまの美しいヘアー創りにはげみたいと思います。

西野 明・笑子・従業員一同

● 3月より “あきら” 新企画スタート



3月より、ローズあきら（三宮本通店）では、腕をみがいた若い男性スタッフ三人が、水曜日、木曜日（2日間）を担当し、ヤング対象の店にきりかえてスタートいたしました。（この二日間、西野笑子は、ブルーあきらを担当）、料金も気軽にいたしておりますので、ぜひ一度お立寄りください。 AM 9:00～PM 6:00まで

●水・木曜日の新料金 シャンプー800～1,000 セット1,200～1,500
 カット1,500～2,000 コールド（ワンコース）4,000～5,000 ヘアーダイ
 4,500～5,000 マニキュア1,200

beauty salon

blue akira

西野 明

神戸市生田区北野町3丁目65ノ3

TEL (078)221—9080

★A.M. 9:00～P.M. 6:00迄

rose
akira

西野笑子

神戸市生田区三

宮町2丁目35

TEL (078)331—4461

★A.M. 10:00～P.M. 6:00迄